企画展
「鈴鹿の古墳Ⅰ
―ちいさなちいさな古墳たち―」

はじめに

鈴鹿市内にいくつの古墳が存在するかご存じでしょうか。遺跡地図に記録されている古墳を全て合わせると約800基にもなります。

現在，その形を地上に留めている古墳の多くは前方後円墳のような大きな古墳です。国の史跡に指定されている王塚古墳（西ノ野１号墳・前方後円墳：全長63 m），県指定史跡の白鳥塚古墳（帆立貝式前方後円墳：全長78 m），市指定史跡の西ノ野５号墳（前方後円墳：全長30.5 m），現在でも良好な形状をとどめる寺田山１号墳（前方後円墳：全長85 m），武器や工具などの鉄製品が多数出土した経塚古墳（帆立貝式前方後円墳：全長35.7 m），金製の耳飾りなど豪華な副葬品が出土した保子里１号墳（双円墳：全長46 m）などはよく知られています。前方後円墳とこれに匹敵する規模の円墳を合わせると６３基，なかでも５０mを超える古墳はたった６基です。これらが地域を治めた王（首長）のお墓であることは皆さんよくご存知でしょう。

しかし，市内に分布するほとんどの古墳は20 mにも満たないちいさなちいさな古墳で，雑木林の中や畑の一角にかろうじて残っているものがほとんどです。近年では，すでに開墾等によって盛土が失われていた古墳が，開発に伴う発掘調査によって新たに発見されるケースが多くなっています。

ちいさな古墳とはいえ，周りに溝をめぐらせ大量の土を盛り上げ，石室などの施設を設けるのは，現代のように重機やダンプカーが使えない当時の人々にとって大変な労力が必要なことだったでしょう。このような古墳を築くことができたのはどのような身分の人たちで，どんな人々が作業に携わったのでしょうか？そしてどのような想いが人々を多くのお墓作りに突き動かせたのでしょうか？

今回の企画展では，鈴鹿市内の身近なところに存在しながらも，あまり注目をあびることのなかったこのような古墳たちを紹介したいと思います。これをきっかけに身近にある遺跡とそれに関わった祖先の暮らしに興味をもっていただければ幸いです。

門山遺跡

所在地　　平野町

調査原因　宅地造成に伴う緊急発掘調査

調査期間　３次調査　平成２４年１月２５日～３月１３日

門山遺跡は鈴鹿川右岸の中位段丘上に位置しています。西には平野城跡が隣接しています。門山遺跡内には４基の門山古墳群が存在するとされていましたが，これらは宅地造成に伴う発掘調査の結果，城跡の土塁の盛土が崩れ，残った高まりを古墳と認識してしまったものだと分かりました。

しかし，その後の３次調査で新たに２基の古墳時代前期の墳丘墓が確認されました。古墳ではなく墳丘墓としたのは，弥生時代の方形周溝墓の流れを引く低墳丘の墳墓であった可能性があるからです。墳丘墓ＳＸ０８は一辺１１ｍほどの方形です。周溝からは墳丘から転げ落ちたと考えられる土師器の二重口縁壺が２個体出土しました。約２．５ｍ離れて出土し，部分的に立てられていたと考えています。１個体はほぼ完全な形で，もう１個体もほぼ全体がわかる良好な資料です。この土器から３世紀後半代の築造が考えられています。

伊勢湾西岸における二重口縁壺は前期の古墳を特徴づける遺物で，中南勢地域の墳墓を中心に出土が知られています。墳墓に供えられた壺の底には孔があけられ，実用品ではないことが表現されているものがほとんどで，「壺形埴輪」として扱われることもあります。北勢地域で墳墓に供えられていた例は他に市内の八野２号墳しかありません。

もう１基のSX01は溝の一部のみの検出ですが，出土した土師器壺からSX08より若干遡るとみられます。

墳丘墓ＳＸ０８平面図

参考文献『鈴鹿市考古博物館年報　第１４号』

八野古墳群

所在地　　八野町

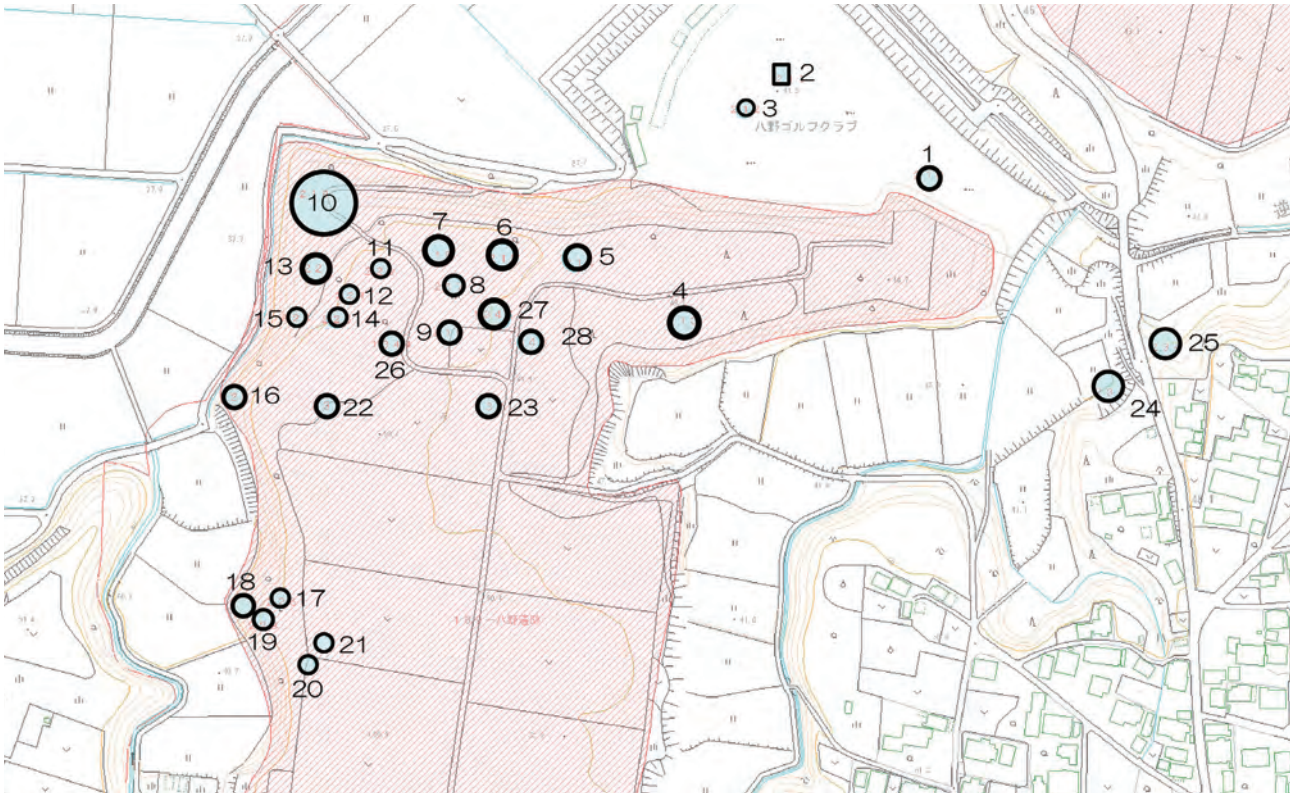
国府地区は鈴鹿川右岸の段丘端に沿って上流から八野古墳群，西ノ野古墳群，保子里古墳群，八百姫古墳群など，市内でも古墳群が良く残っている地域です。八野古墳群は鈴鹿川に向かって北方に突出する段丘縁辺部に位置しています。２５基の古墳が知られ，多くは径１０～１５mの円墳で，１０号墳は径３０mの円墳で古墳群の中で最大のものです。

昭和３１年に亀山高校古墳調査団によって８号墳の調査が，昭和４７年に神戸高校郷土史研究部によって２・３号墳の調査が実施されました。また，平成２５年にはモータープール造成工事に伴い，発掘調査が実施され，新たに３基の古墳が確認されました。

２号墳は，南北１０．５m，東西７．４mの長方形の方墳です。埋葬主体部は明確にできていませんが，鉄剣が出土したあたりに木棺を直接埋納した（木棺直葬）と思われます。墳頂部からは土師器の二重口縁壺が２個体出土し，５世紀初頭の築造と考えられています。

３号墳は直径５．３m，　高さ０．８mの円墳でした。　木棺直葬の主体部には赤色顔料が撒かれ鉄剣などが出土しています。土器は出土していませんが，同様に５世紀代の築造と見られます。

八野古墳群の他の古墳は５世紀後半から６世紀前半にかけて築かれるいわゆる初期の群集墳であるのに対し，この２・３号墳は市内でも数少ない前期の小型古墳の貴重な例です。



八野古墳群分布図

参考文献　『鈴鹿市史』第１巻

保子里古墳群

所在地　　国府町

調査原因　開墾，工場建設，構内道路改良工事に伴う緊急発掘調査

調査期間　８号墳　平成 18 年 11 月２日～ 12 月 28 日

13 号墳　昭和 37 年 12 月 22 日～ 12 月 27 日

14 号墳　昭和 35 年８月

18 号墳　昭和 38 年３月 23 日～３月 31 日

保子里古墳群は，戦前に 28 基の古墳が存在したと伝えられていましたが，開墾により戦後には 19 基まで減少し，現在では 10 基程度しか残存していません。この古墳群を代表する１号墳は車塚・大塚とも言われ，直径 20 mほどの円丘２基が連なる双円墳と考えられています。明治３２年に発掘され，金製の垂飾付耳飾りや銀象嵌の刀装具など豪華な副葬品が出土したことで知られています。２号墳は全長 23 mの規模で鈴鹿川流域において最小クラスの前方後円墳です。

８号墳は一辺約 11 m，高さ 1.2 m程度の方墳です。埋葬主体部についてはわずかに粘土の層が確認されたことから，粘土床を伴うものと見られます。粘土層から刀子，周溝から須恵器壺が出土しました。６世紀後半の築造と考えられています。

１３号墳は直径約 10 m，高さ 0.6 mの円墳で，すでに盗掘を受けていました。こちらにも，粘土床の一部と思われる痕跡が残っていました。これとは別に，墳頂北寄りで円筒埴輪が東西に横たわっている状態で出土しました。円筒埴輪は棺として用いられたもので，被葬者の家族が後から埋葬されたものと考えられます。また，東寄りでは須恵器が積み重なった状態で出土しました。６世紀初頭の築造と考えられています。

１４号墳は直径 11 m，高さ 1.4 mの規模の円墳です。埋葬主体部は大正時代に盗掘によって，失われていましたが，墳丘の底部に粘土床の一部が残存していました。遺体を収めた木棺を粘土でおおっていた可能性が考えられています。須恵器高坏の蓋，鉄製品などが出土し，６世紀前半の築造と考えられています。

１８号墳は直径 13.3 mの円墳で，斜面に築かれているため高さは 0.6 ～ 1.6 mを測ります。埋葬施設には横穴式石室が用いられており，保子里古墳群内の他の古墳とは性格を異にします。天井石や側壁の上部，奥壁近くは石材が失われていました。石室内からは須恵器，勾玉，管玉，鉄刀，鉄鏃，刀子が出土しました。これらの出土品から７世紀初頭の築造と考えられています。

参考文献　『鈴鹿市史』第１巻　『鈴鹿市考古博物館年報　第９号』

縮尺
鈴
鹿
市
本田技研国府寮
保子里遺跡
北一色遺跡
国府町
1次
5次
5次
1次
西之野
エフ・シー・シー
鈴鹿工場
県道亀
・・・古墳
・・・今回紹介する古墳
0
100m

保子里古墳群分布図

西ノ野古墳群

所在地　　国府町
調査原因　店舗建設及び個人住宅に伴う緊急発掘調査
調査期間　１３～１５号墳　平成４年５月１１日～５月２２日
　　１６号墳　　平成４年８月１９日～８月２１日

西ノ野古墳群は鈴鹿川中流域右岸の河岸段丘上縁辺に位置し，付近は古墳を中心に遺跡が密集しています。西ノ野古墳群は明治期の村絵図に 91 基もの古墳が記されていましたが，開墾によって多くは失われてしまいました。しかし，戦後米軍によって撮影された航空写真をみると失われた古墳の痕跡を読み取ることができます。

現在残っている西ノ野１号墳は全長６３m，周堤を有する前方後円墳で，国の史跡に指定されています。また，５号墳（市指定）は全長３０．５mの前方後円墳で周囲には小型の円墳５基（かつては８基）をめぐらします。やや離れたところに位置する１１号墳は全長５０mの前方後円墳で，吉凶の寄り合いの際，ここに願をかければお椀が出てくるという伝説から椀塚と呼ばれています。これ以外の古墳はすべて小規模の円墳であったようです。

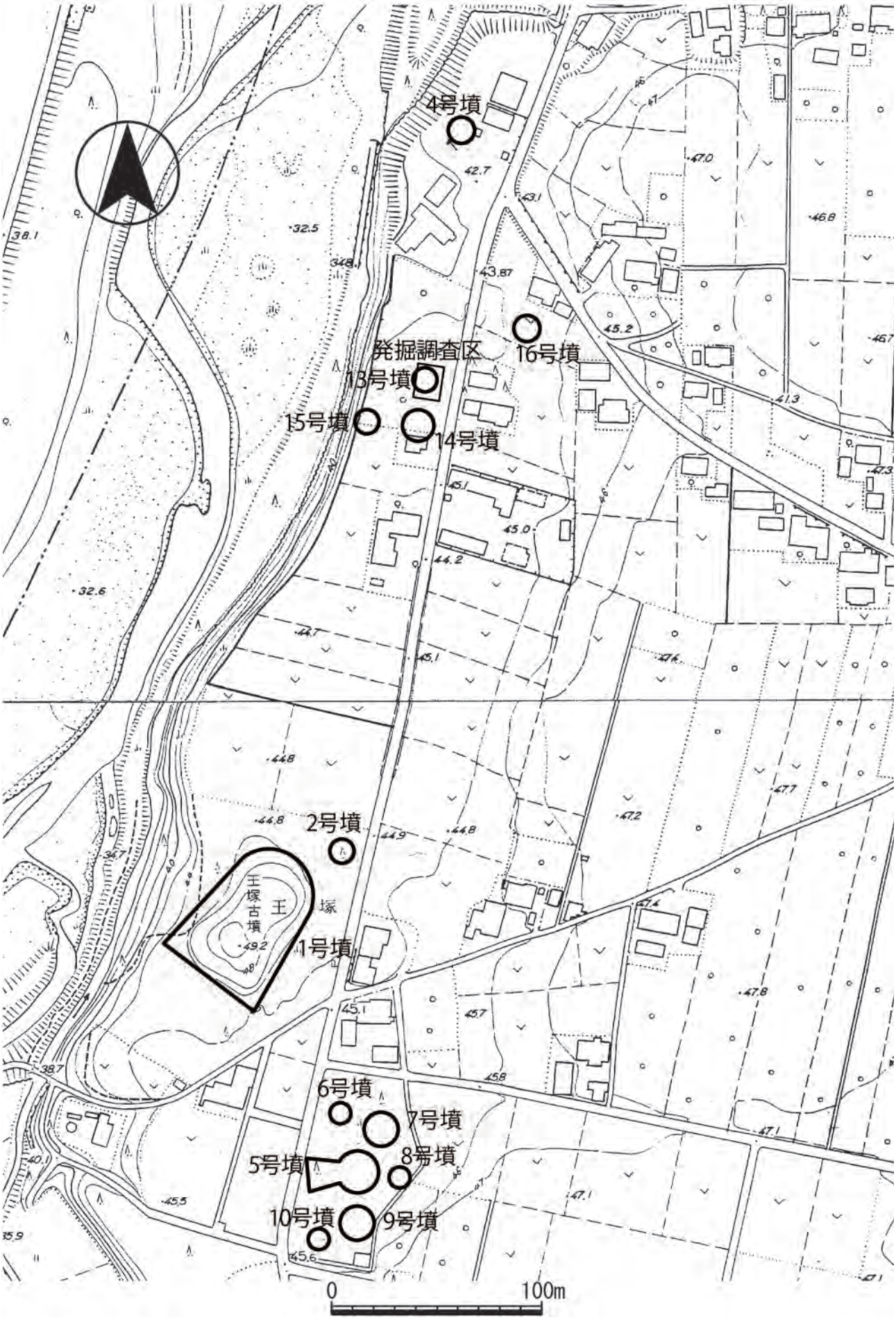
１３号墳は直径１１．５mの円墳です。開墾によってすでに墳丘は失われていました。周溝の南側上層で６世紀代の土師器甕が出土しました。

１４・１５号墳は１３号墳の調査の際に確認されました。１４号墳は南約２５mの地点に位置しています。直径１２～１３mの円墳で，同様に墳丘は失われていました。周溝内から遺物の出土は確認されていません。

１５号墳は１４号墳の西約２５mの地点に位置しています。確認できた周溝は１／４程度で，推定される直径は１１～１２mです。１５号墳も同様に墳丘は失われ，周溝内から遺物の出土は確認されていません。

１６号墳は１３～１５号墳から北東へ約６０mの地点に位置します。全体は確認できていませんが，推定される規模は直径９mほどの円墳で，この古墳も墳丘が失われていました。周溝内からは遺物は確認されませんでした。調査ではこのほかに周溝に近接して３基の土壙墓が確認されています。今回，展示していませんが，土壙墓１からは須恵器蓋坏，土壙墓２からは炭化した木材，土壙墓４からは円筒埴輪が出土しました。これらの土壙墓が１６号墳を主墳として並行するように造られたとみるならば，１６号墳から直接遺物の出土はないものの，６世紀初頭の築造と考えられます。

参考文献　『西ノ野遺跡第１次発掘調査報告』，『西ノ野遺跡発掘調査報告書』


4号墳
発掘調査区
16号墳
13号墳
15号墳
14号墳
2号墳
王塚古墳
王塚
1号墳
6号墳
7号墳
5号墳
8号墳
10号墳
9号墳
0
100m

西ノ野古墳群分布図

梅田古墳

所在地　　国府町

調査原因　モータープール建設に伴う緊急発掘調査

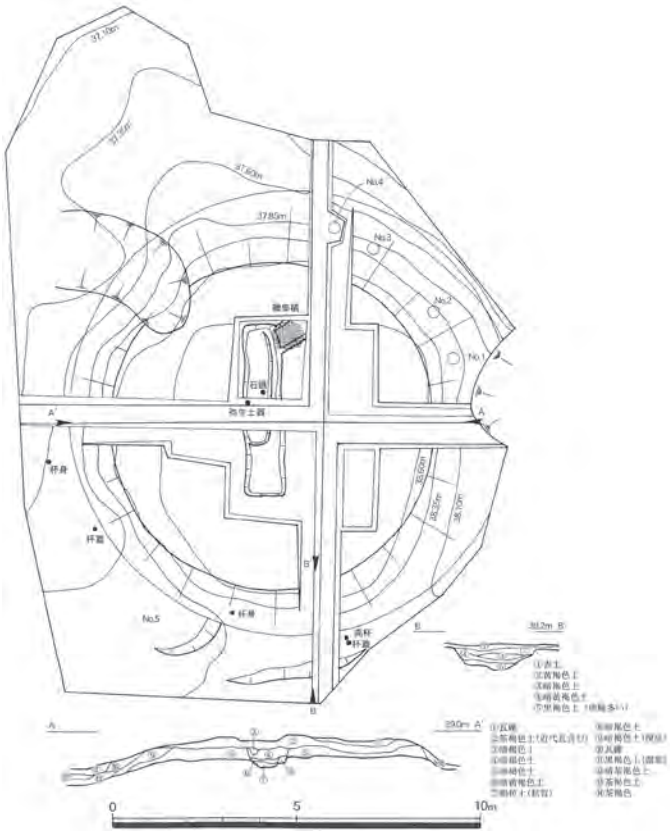
調査期間　平成２年２月１６日～３月４日

梅田古墳は鈴鹿川の小支流である筒井川の左岸に突き出した半島状地形の先端に単独で立地しています。筒井川の対岸（東側）には石丸野２号墳がかつて存在し，ほかにも多数の古墳が存在した可能性が考えられますが，現在，前方後円墳の石丸野１号墳の後円部が唯一残っています。西側の鈴鹿川の谷底平野を見下ろす段丘端には八百姫古墳群が存在します。

梅田古墳は地形を利用して築かれた直径１０m程度の円墳です。谷に面した墳丘の４分の３は高さ１m以上の円錐台状に削り出し，台地につながる南側４分の１は幅２m，深さ０．５mの周溝を掘削しています。

墳丘北東裾で４個体分の埴輪の底部が確認されました。出土状況から本来の樹立位置と断定はできませんが，１～１．５m間隔で確認されたことや埴輪片の分布から埴輪列が墳丘を全周していたと考えられることから，２５個前後の埴輪が墳丘上に並べられていたと思われます。埋葬主体部は墳丘のほぼ中央で確認され，木棺直葬と思われますが，副葬品がなく，弥生土器がまとまって出土しているため，弥生時代の土壙墓の上に古墳が築かれた可能性も考えられています。出土遺物から５世紀末から６世紀初頭の築造と考えられています。

位置図



平面図

参考文献　『鈴鹿市考古博物館年報　第２号』

矢下古墳群（やおろしこふんぐん）

所在地　　西富田町

調査原因　道路改良工事に伴う緊急発掘調査，学術調査

調査期間　３号墳　平成４年８月１０日～８月１４日

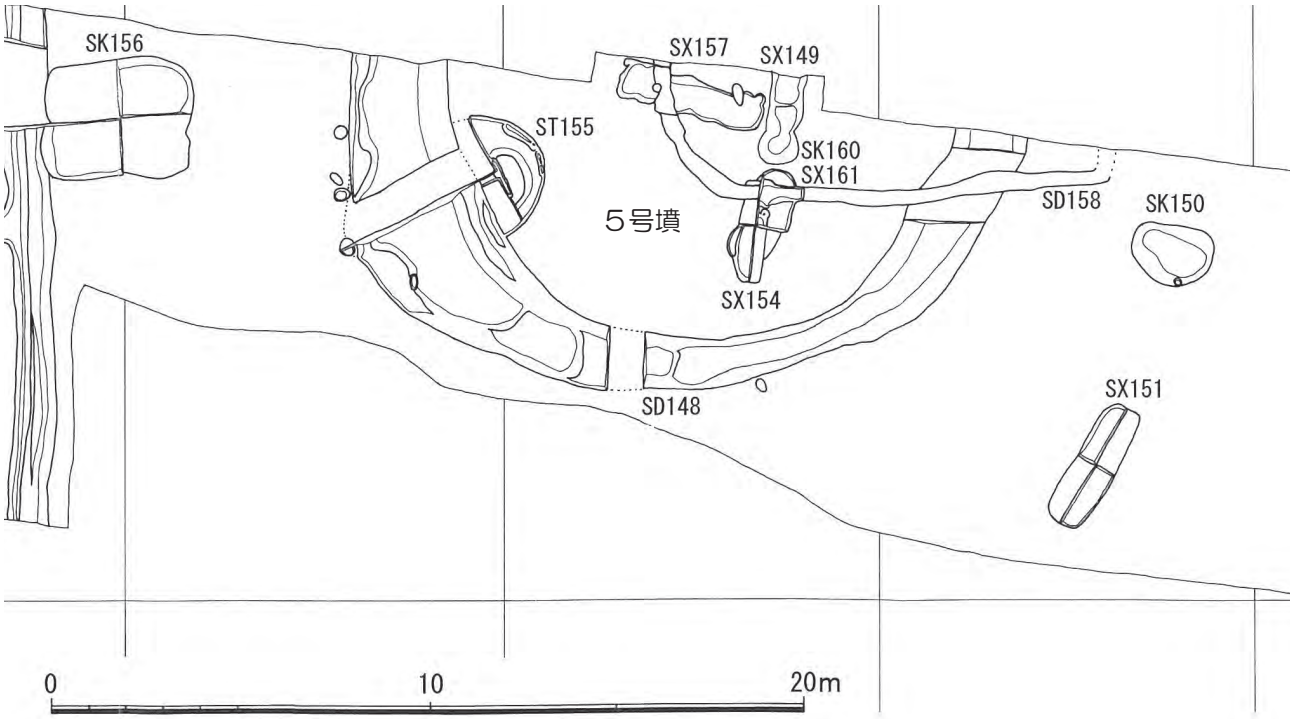
　　５号墳　平成１４年４月２４日～８月１２日

矢下古墳群は鈴鹿川の支流安楽川（あんらく）左岸の標高約５０ｍの段丘（だんきゅう）縁辺部に位置します。４基の古墳の存在が知られていました。１・２号墳は鈴鹿市内，４号墳は亀山市内に所在していたとされていますが，１・２号墳は正確な位置がわからなくなっています。

３号墳は市道の拡幅（かくふく）によって半分が壊されているものの今も墳丘（ふんきゅう）が残っています。直径１６ｍほどの円墳（えんぷん）で，過去に盗掘（とうくつ）を何度も受け埋葬主体部（まいそうしゅたいぶ）も大部分が壊されていましたが，粘土床（ねんどしょう）の一部がかろうじて残り，棺（ひつぎ）の痕跡（こんせき）に沿って鉄刀（てっとう）が出土しました。土器の出土はありませんが，状況から５号墳に先行する５世紀代の築造（ちくぞう）と考えています。

５号墳は伊勢国府跡の範囲確認調査に伴い新たに発見されました。直径１４ｍの円墳で，墳丘は全く失われていたものの，周溝（しゅうこう）とその中央で埋葬主体部がかろうじて残っていました。墓壙（ぼこう）は非常に残りが悪く，棺の痕跡までは確認できていませんが，管玉（くだたま）・ガラス玉が出土しました。ガラス玉は水色，紺，緑，黄色とバラエティに富み，破片を含め７４点あります。ほかには赤色の顔料も確認されています。周溝からは土師器（はじき）の短頸壺（たんけいこ）が２個体出土しています。出土遺物から５世紀末から６世紀初頭の築造と考えています。

３号墳出土の鉄刀，５号墳出土の玉類は常設展示室で展示しています。



５号墳平面図

参考文献　『伊勢国府跡５』『鈴鹿市考古博物館年報　第８号』

石薬師東古墳群

所在地　　石薬師町

調査原因　道路改良工事，福祉施設建設に伴う緊急発掘調査

調査期間　３７・５８号墳　平成７年１０月１６日～１１月２日

　　８０・８１号墳　平成１０年7月6日～7月7日

　　８３号墳　　平成１１年４月

石薬師東古墳群は鈴鹿川下流域の左岸の標高４０m前後の台地上に位置します。かつて前方後円墳１基を含む２５基の古墳が存在していたことが知られていました。しかし，戦前の旧陸軍第一気象連隊の施設や戦後の県の施設が建設された際に古墳は破壊され，消滅してしまいました。

鈴鹿市のほか，消防学校施設・設備整備事業に伴って三重県埋蔵文化財センターによって発掘調査が実施され，これまでに 60 基を超える古墳が確認されています。ほとんどが一辺 15 m以下の方墳で，規模が 20 mを超える古墳のみが円墳です。調査では周溝のみが確認され，石室の痕跡や石材は全く確認されていないため，埋葬主体部は横穴式石室ではなく，木棺直葬と考えられています。周溝の底からは置かれた状態の完形の土器や意図的に割られた土器が出土し，周溝内で葬送に関わる儀式が行われたと思われます。また，出土した埴輪には全国的にみても珍しい鹿形埴輪や類例のない表現をした馬形埴輪があります。出土遺物から古墳群は５世紀後半から６世紀前半にかけ順次築造されていったと考えられています。

３７号墳は東西１３m×南北１１mの規模の長方形の古墳と推定されています。周溝の底から須恵器甕がつぶれた状態で出土し，それに伴うように須恵器はそうが出土しました。

５８号墳は一辺６．５mの方墳と推定されています。周溝からは土師器坏や壺，焼成後に底部を穿孔した須恵器甕が出土しました。調査では他に５基の方墳が確認され，３７・３８・５６～５９号墳の６基は方位を揃え並ぶように築かれています。

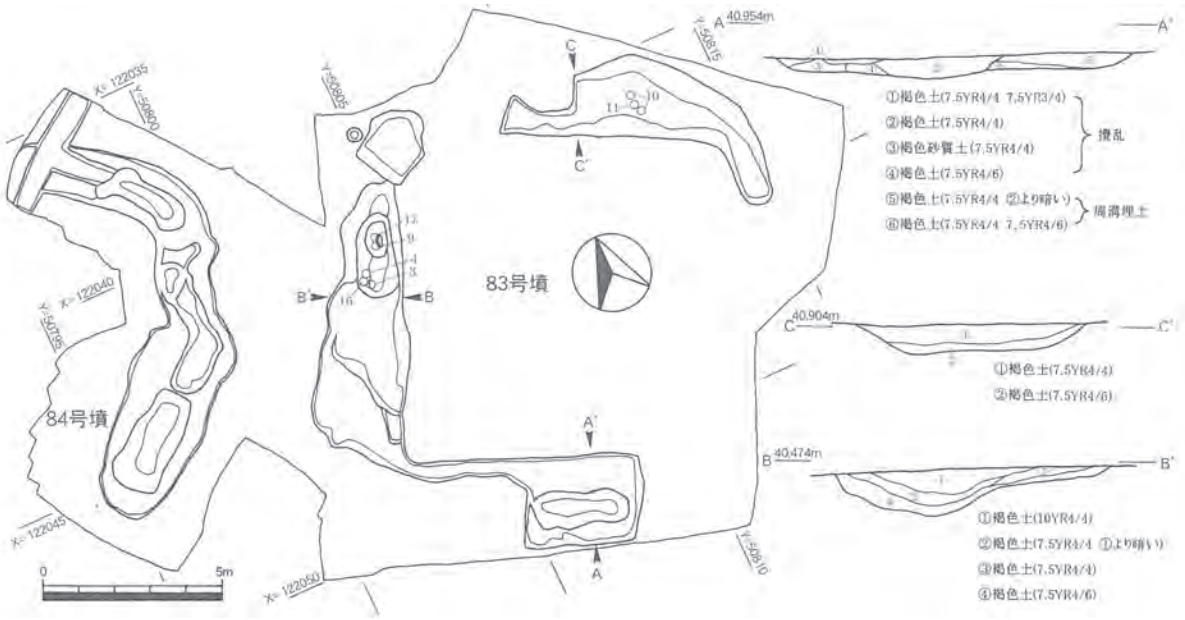
調査区による制約のため，８０・８１号墳ともに古墳の規模はわかっていません。いずれからも円筒埴輪・人物埴輪・家形埴輪などが出土しました。８０号墳から出土した人物埴輪は襟のあわせや胸紐，帯などの表現が見られ，正装の男子と考えられます。８１号墳から出土した家形埴輪は入母屋作りの屋根構造をもつものです。

８３号墳は南北９．１m，東西９．５mの方墳です。北周溝•西周溝から須恵器がまとまって出土しました。それぞれから出土した須恵器には時期差があり，西周溝から出土した須恵器は後から埋納された可能性が考えられます。

参考文献　『鈴鹿市埋蔵文化財年報Ⅲ』『鈴鹿市埋蔵文化財調査年報Ⅳ』
『鈴鹿市考古博物館年報　第２号』

国道１号線
乘鞍　古墳
渡瀬川
県立石薬師高校
三重県消防学校
石薬師東古墳群
石薬師東遺跡
丸山古墳群
中山古墳群
0
200m
かつて存在したとされる
石薬師東古墳群
周辺の古墳
発掘調査で確認された石薬師古墳群

石薬師東古墳群分布図



８３・８４号墳平面図

稲荷山古墳

所在地　　石薬師町

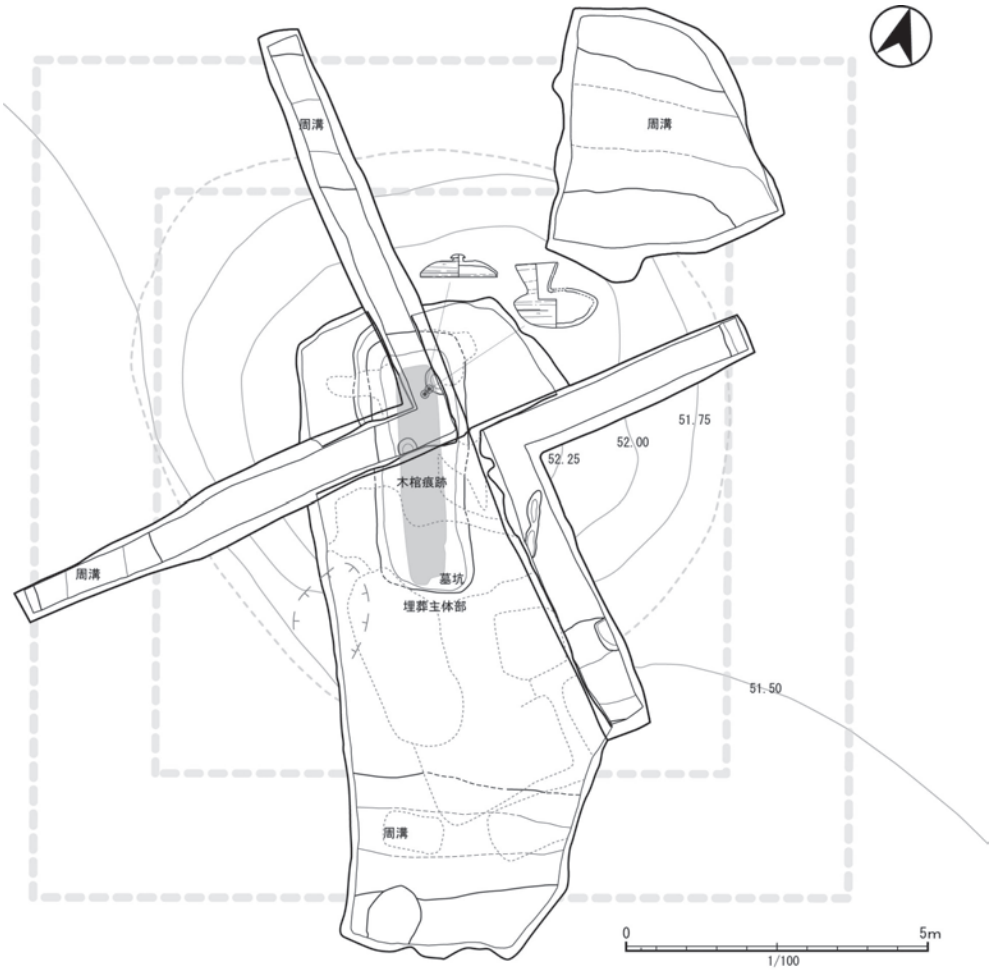
調査原因　駐車場造成及び仮設物置設置に伴う緊急発掘調査

調査期間　平成１８年２月２３日～３月２２日

稲荷山古墳は鈴鹿山麓から広がる高位段丘が鈴鹿川支流の小河川によって開析されて形成された舌状の台地上に位置します。東へ約２ｋｍの地点には石薬師東古墳群，西から南にかけて１～２ｋｍには白鳥塚古墳群，高塚古墳群，加佐登古墳群が分布していますが，この古墳のある舌状の台地上にはほかに古墳は見つかっていません。

稲荷山古墳は高さ１ｍほどのなだらかな円墳状の高まりとして墳丘が残っていましたが，撹乱され変形していたもので，確認された周溝から東西９．６ｍ，南北９．５ｍの方墳であったことがわかりました。埋葬施設は石室ではなく，木棺を直接埋設したものでした。墓壙からは須恵器の坏蓋・平瓶が出土しました。それらから，築造年代は７世紀後半に降ると考えられます。いわゆる終末期の古墳に位置づけられます。

これまであまり開発が進んでおらず集落遺跡や古墳の分布が少ない台地の奥部にぽつんと築かれていることが特徴的な，興味深い古墳です。



稲荷山古墳平面図

参考文献　『稲荷山古墳』

沖ノ坂古墳群

所在地　　国分町

調査原因　一般廃棄物最終処分場建設に伴う緊急発掘調査

調査期間　平成３年１月７日～３月２６日

沖ノ坂古墳群は，鈴鹿川左岸の南に向かって突き出す狭い舌状の台地上に位置しています。谷を挟んで東側には中尾山遺跡が，国分川の谷を挟んだ西側には南浦（大鹿）廃寺，大鹿山古墳群，磐城山遺跡が立地しています。沖ノ坂古墳群はかつて１９基の古墳が存在したとされていますが，現在では３基が残るのみです。

調査では開墾によって墳丘を失った５基の小方墳の周溝を確認しました。それらとは別に周溝を伴う土壙墓 SX02 が確認されています。

SX02 は長さ２．１ｍ，幅０．７ｍの隅丸方形をした墓壙です。中心からやや北よりで須恵器の坏蓋と坏身が両側の壁にそれぞれ沿って出土しました。周囲には幅０．３ｍの溝が断続的にめぐっていて，須恵器高坏が出土しました。この溝は墓壙に伴う周溝と考えられ，東西約３．４ｍの規模で，円形もしくは隅丸方形状の小規模な盛土を伴っていたと考えられます。７世紀前半の築造と考えられます。まだ周囲では小さいながらも墳丘を持った古墳が築かれているなかで，このような特殊な墓に葬られた人物はどんな身分・地位だったのでしょうか？

沖ノ坂遺跡平面図

参考文献　『発掘された鈴鹿　1991』

寺田山古墳群（てらだやまこふんぐん）

所在地　　高岡町

調査原因　道路建設に伴う発掘調査

調査期間　平成２年１０月１日～１１月３０日

　　平成４年４月２０日～６月２日

寺田山古墳群は鈴鹿川下流域左岸の段丘（だんきゅう）上に位置し，前方後円墳（ぜんぽうこうえんふん）を含む１２基の古墳群として知られていました。鈴鹿川に向かってのびる舌状の台地の先端には，前方後円墳である１号墳が築かれています。全長８５ｍと鈴鹿川流域第２位の規模で，墳丘（ふんきゅう）の保存状況は良好です。後円部の直径は４５ｍで，前方部より３ｍほど高くなっています。前方部はくびれ部分の幅が約１５ｍ，先端の幅が２０ｍとあまり開くことはなく，柄鏡形（えかがみがた）に近い形状をしています。今のところ１号墳に伴う遺物の出土は知れられていませんが，古墳の形状から４世紀末から５世紀初頭の築造（ちくぞう）と考えられています。１号墳に近接して２，３号墳が築かれ，このほかの古墳はやや奥まったところに築かれています。

発掘調査では，墳丘が残っていた７・１０・１１号墳のほかに，墳丘がすでに失われ，周溝（しゅうこう）だけが残っていた古墳が新たに１０基ほど見つかっています。

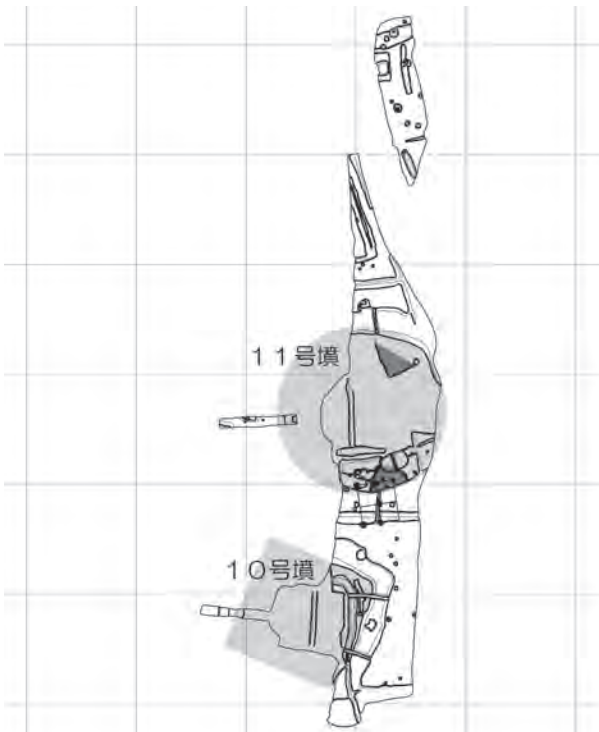
７号墳は，土取りによって墳丘の半分が失われていました。直径１４．５ｍの円墳（えんぷん）で，残存していた高さは２ｍを測ります。埋葬主体部（まいそうしゅたいぶ）は木棺（もっかん）を直接墓壙（ぼこう）に埋納（まいのう）する木棺直葬（もっかんじきそう）で，鉄刀（てっとう），鉄剣（てっけん），鉄斧（てっぷ）が副葬（ふくそう）されていました。これらは常設展示室にて展示しています。墳丘斜面には石が葺（ふ）かれ，裾（すそ）には埴輪の底部がかろうじて残っていました。築造は５世紀後半と考えられています。周溝からは供えられた器台（きだい）などの須恵器（すえき）のほか，奈良時代（ならじだい）の瓦（かわら）や土器類が出土しています。どうやら周溝の窪（くぼ）みを後世の住民はゴミ捨て場として利用していたようです。

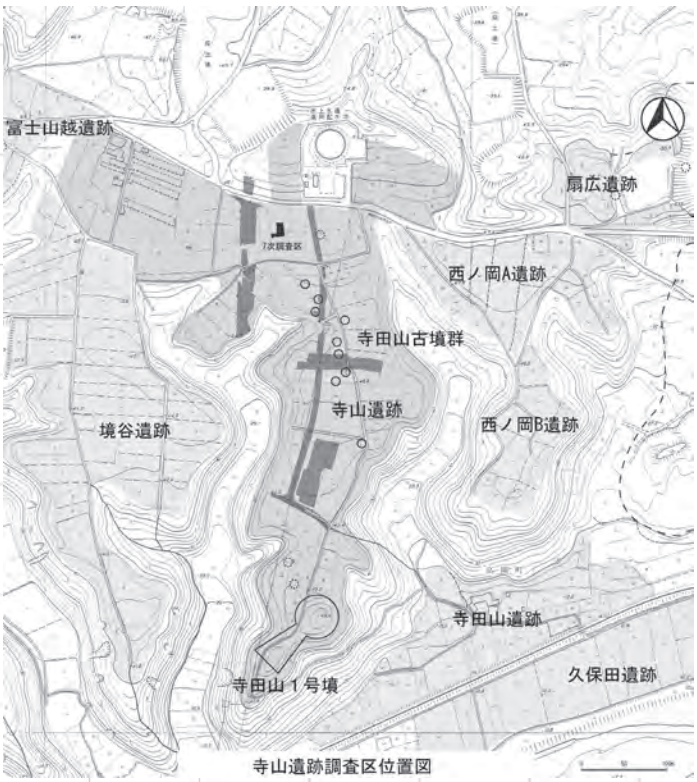
１０・１１号墳は墳丘の中心部分の盛土（もりど）が一部だけ残っていました。残念ながら埋葬主体部は確認できていません。１０号墳の周溝からは須恵器が出土し，築造は６世紀中頃の築造，１１号墳の周溝からは円筒埴輪が出土し，６世紀前半の築造と考えられています。

１６号墳は一辺６．５ｍと古墳群の中でも小規模ですが，周溝からは須恵器がまとまって出土しています。築造は６世紀前半と考えられています。

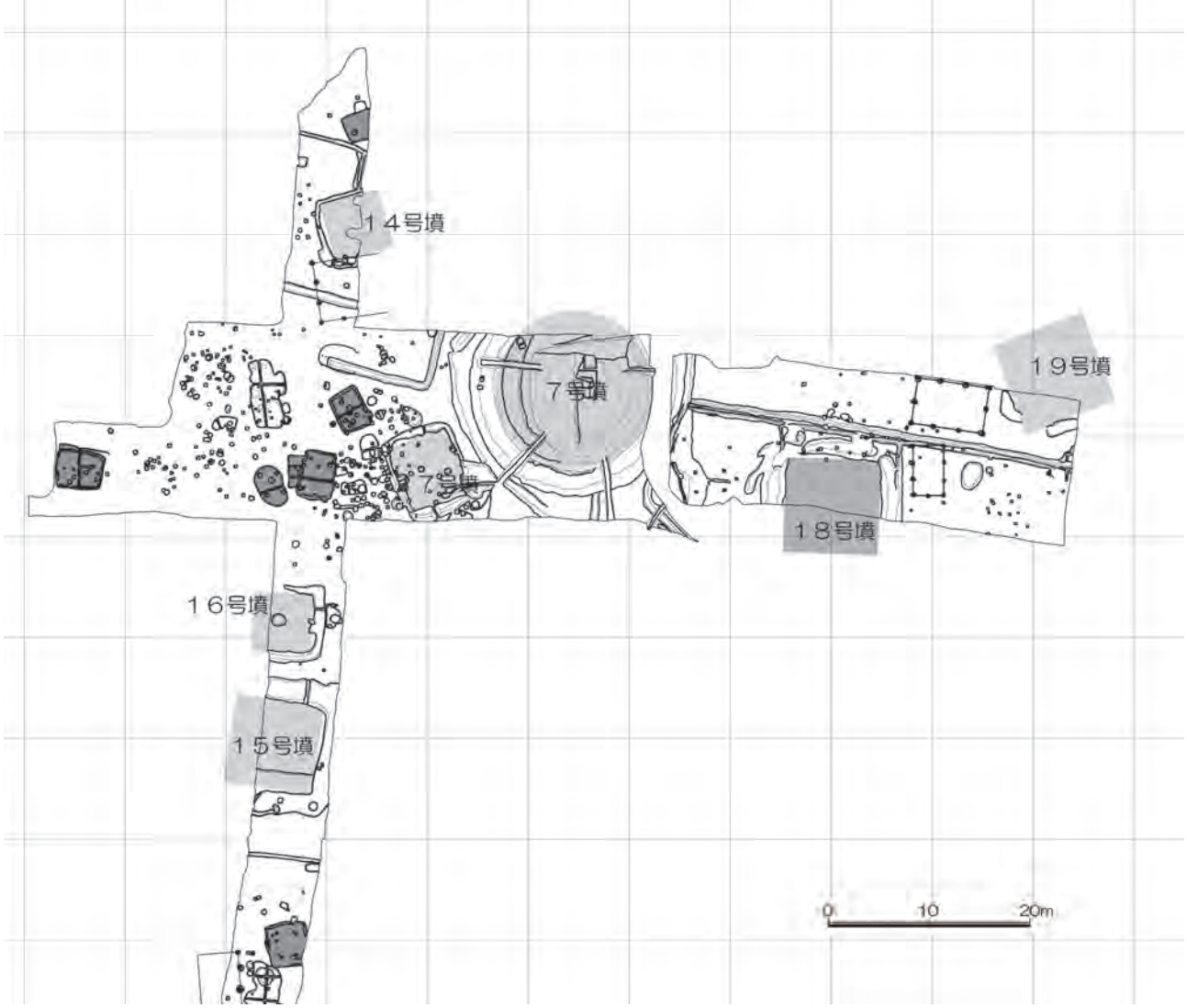
寺田山古墳群は，前期の大型前方後円墳を伝説的な祖先の墓とみなして，それに連なるように営まれたと考えられる初期の群集墳（ぐんしゅうふん）の好例です。

古墳	墳形	規模	埋葬主体部	埴輪	備考
６号墳	円墳	―	―		
７号墳	円墳	径１４．５ｍ　高さ２ｍ	木棺直葬	有（円筒・形象）	葺石／鉄刀，鉄剣，鉄斧，須恵器
１０号墳	方墳	１０ｍ	―		
１１号墳	円墳	１４ｍ	―	有	
１４号墳	方墳	７ｍ	―		
１５号墳	方墳	９ｍ	―		
１６号墳	方墳	６．５ｍ	―		
１７号墳	方墳	６ｍ	―		
１８号墳	方墳	１２ｍ	―		
１９号墳	方墳	―	―		





寺山遺跡調査区位置図



参考文献 『三重県埋蔵文化財センター年報２』『三重県埋蔵文化財センター年報４』

萱町遺跡

所在地　　神戸八丁目

調査原因　宅地造成，個人住宅建築に伴う緊急発掘調査

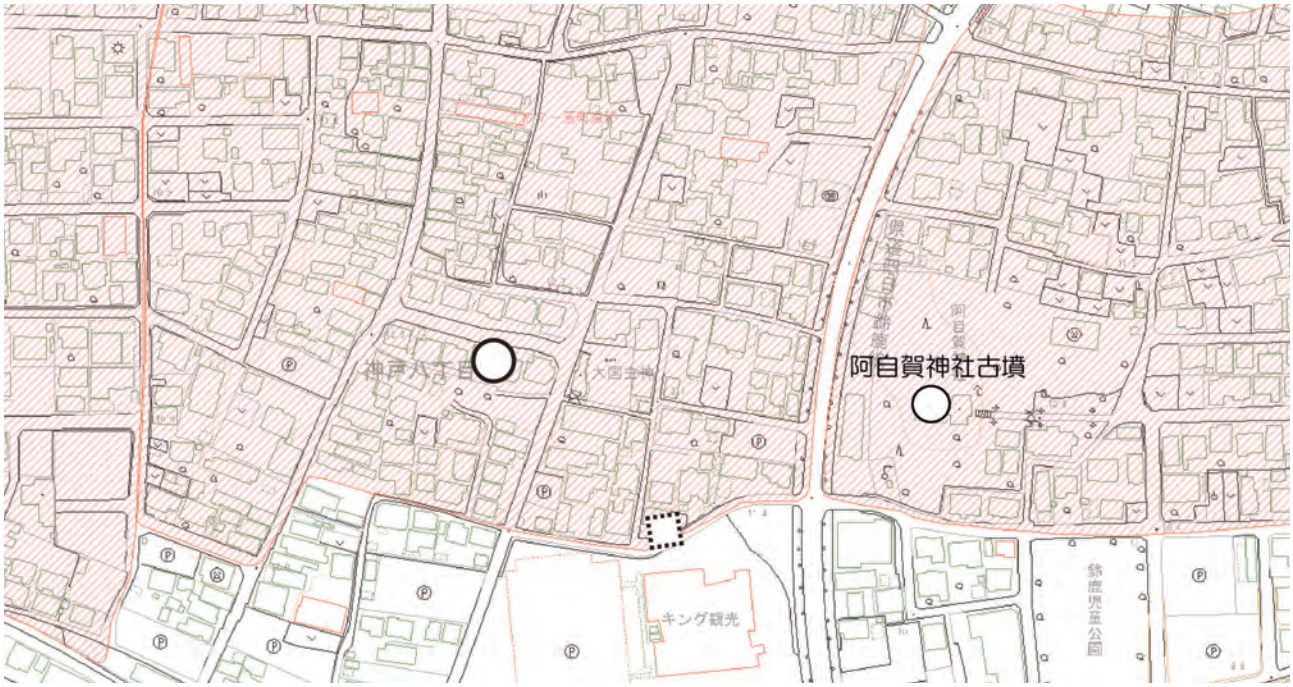
調査期間　１次調査　平成１７年２月１５日～３月１５日

　　３次調査　平成２０年１０月１５日～１１月６日

萱町遺跡は鈴鹿川右岸にのびる低位段丘上に位置しています。昭和１７年，防火用水を掘削している最中に赤く彩られた弥生土器が出土して，その存在が明らかになりました。近隣にある阿自賀神社の社殿は古墳の墳丘上に建てられていると思われ，境内から地方としては珍しい奈良時代の二彩小壺が出土しています。

１次調査では古墳の周溝の一部が確認されました。円墳で，推定される径は１７mほどになります。周溝からは円筒埴輪，朝顔形埴輪，馬形埴輪，須恵器，土師器が出土しています。埴輪の大半は６世紀代のものと考えられますが，奈良時代の遺物も含まれ埋没していなかった周溝に土器を廃棄していたようです。

３次調査では方墳の周溝とみられる溝が確認されました。周溝の東端からは７世紀代の須恵器・土師器がまとまって出土しました。その中にほぼ完全な形に復元できた大甕が含まれていました。この甕はその場所でつぶれたのではなく，壊した破片を積み上げたような状況で出土しました。土器を埋納するために穴が掘られた様子は見られず，埋没途中の周溝に置かれたものと思われますが，その目的は不明です。



古墳分布図

参考文献『鈴鹿市考古博物館年報』第７号・第１１号

北ノ添遺跡

所在地　北玉垣町

調査原因　宅地造成工事に伴う緊急発掘調査

調査期間　平成３年１０月２３日～１１月９日

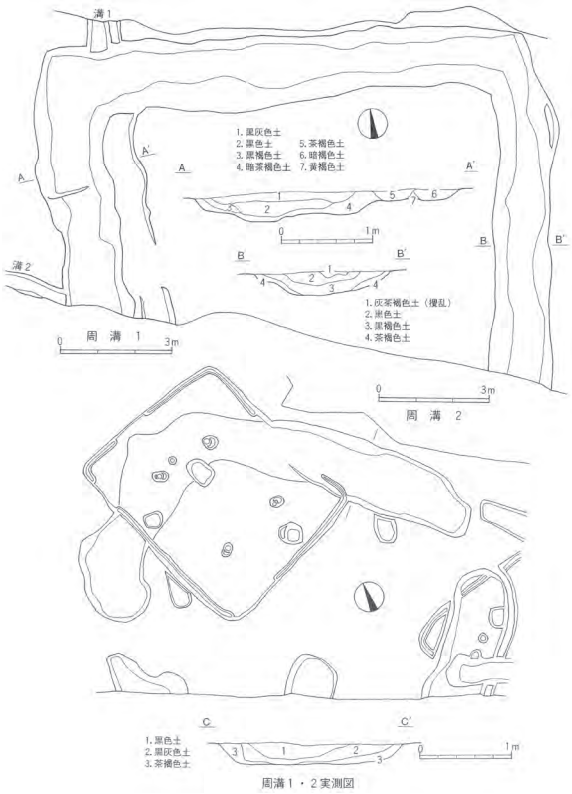
鈴鹿川右岸の中低段丘上，広く平坦な台地の北辺部に北ノ添遺跡は位置します。付近では起Ａ遺跡で６世紀前半の円墳が検出され，起Ｃ遺跡からは円筒埴輪が出土しています。調査では，弥生時代から中世の遺構・遺物が確認されています。見つかった古墳は，墳丘・埋葬主体部はすでに失われていて，周溝だけが確認できました。形状からいずれも方墳です。

周溝１の規模は一辺１０．４ｍを測ります。周溝の南側が調査区外となっていますが，おそらく正方形に溝が巡ると考えられます。遺物は北辺で土師器壺，北西隅で須恵器台付短頸壺・平瓶が出土しました。出土した遺物から６世紀後葉と考えられます。

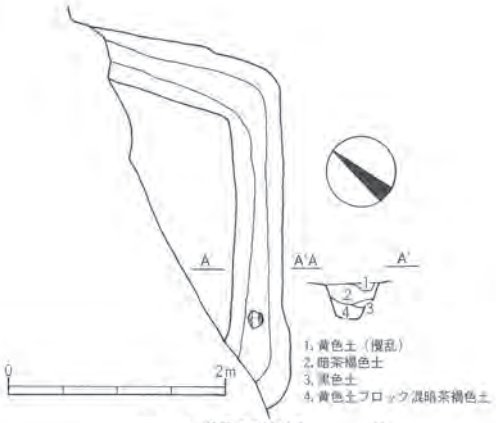
周溝２は周溝１の東に隣接して確認しました。長方形で，東西８．０ｍ，南北６．２ｍを測ります。溝は非常に浅く，遺物の出土はありません。

周溝３は大部分が調査区外のため，正確な規模はわかりませんが，一辺が２．２ｍ程度を測ります。周溝からは南東隅近くから須恵器長頸壺が出土しました。この須恵器は奈良時代のものですが，後世に投入された可能性も考えられ，時期は判断できません。

後期の群集墳の築造ラッシュが一段落した後に新たに営まれ始める方墳を主体とする小規模な古墳群の一例といえるでしょう。



周溝１・２実測図



周溝３実測図

参考文献　『北ノ添遺跡』

岸岡山古墳群

所在地　　岸岡町

調査原因　宅地開発に伴う緊急発掘調査

調査期間　平成１９年１１月２０日～平成２０年３月２６日

海岸近くに立地する標高約４０ｍの独立丘陵「岸岡山」と海岸に形成された浜堤（砂丘）上には弥生時代から古墳時代の集落跡のほか，前方後円墳を含む３８基の岸岡山古墳が分布しています。また，岸岡山の南に連なる丘陵上には愛宕古墳群，北の平野部には画文帯神獣鏡等が出土したとされる塚越古墳群が分布しています。また，岸岡山丘陵には須恵器の窯跡が存在したことも知られています。ここでは特徴のある須恵器が生産され，特に脚付短頸壺は伊勢湾を渡って，知多・渥美半島の古墳からも出土しています。

岸岡山古墳群内で最大の古墳は前方後円墳の２２号墳で，全長５３．５ｍを測ります。平成７～８年に調査が実施され，埋葬主体部は確認されませんでしたが，円筒埴輪，形象埴輪，須恵器がまとまって出土しました。５世紀後半の築造です。２１号墳は全長３３ｍの前方後円墳とされています。６世紀前半の築造です。そのほかは１０ｍ前後の小古墳で，多くの古墳の主体部は木棺直葬らしく，雨で洗われ流れ出した副葬品が採集されたことにより確認されたものもあります。

岸岡山古墳群分布図

３９号墳は，東西１６．２m，南北１３．３m以上の方墳です。埋葬施設は南に開口する横穴式石室で，岸岡山古墳群の中で石室をもつものはこの古墳だけで，異色の存在です。石室の石材のうち床面に敷かれていた石以外は失われていました。丘陵の斜面に築かれているため，周溝は全周していません。石室内からは須恵器蓋坏・高坏・平瓶・器台，砥石，鉄刀，刀子などが出土しました。出土遺物から６世紀後半に築造されたと考えられます。

３９号墳平面図

参考文献　『鈴鹿市史』第１巻　『岸岡山Ⅲ遺跡（第２次）』

寺谷古墳群

所在地　　郡山町

調査原因　学校建設に伴う緊急発掘調査

調査期間　平成４年７月６日～平成５年２月５日

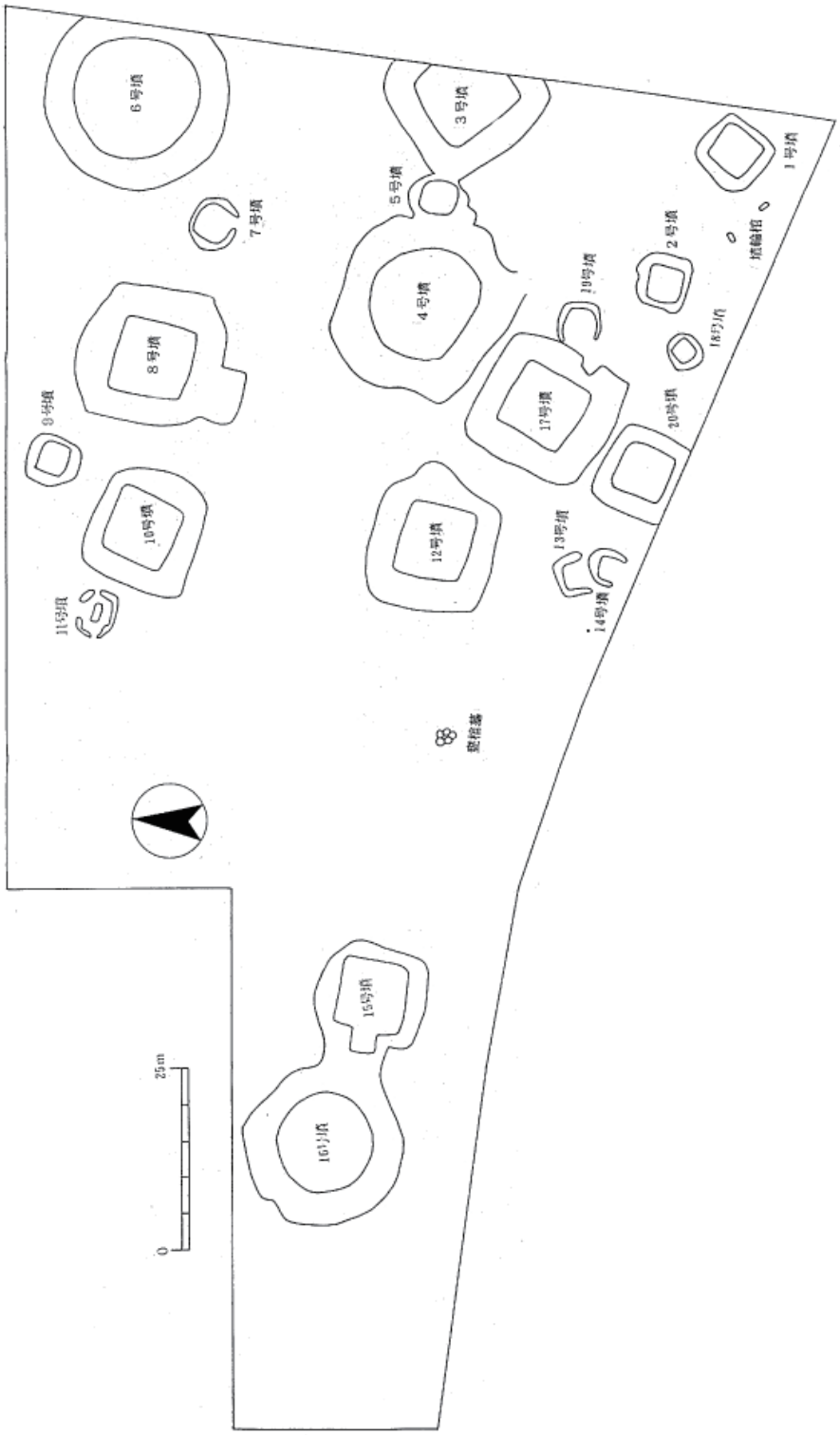
寺谷古墳群は中ノ川南岸に形成された標高４０ｍの丘陵地で，ちょうど鈴鹿市と津市河芸町の境に位置します。周辺には中ノ川流域を支配した首長墓として４世紀にはアカゴ塚古墳，５世紀前半には西高山１号墳（円墳），経塚古墳（前方後円墳），５世紀後半には西高山２号墳（前方後円墳）が順に築かれました。６世紀になると丘陵の各地に須恵器の窯が築かれるようになり，茶臼山古墳群（２１基），大野古墳群（４６基）の群集墳が築かれました。

寺谷古墳群は発掘調査によって新たに確認された古墳群で，２０基の古墳のほかに埴輪棺，土器棺が確認されています。これらの古墳は開墾等により削平され，周溝のみが確認されました。埋葬主体部はおそらく墓壙に木棺を直接納めた木棺直葬と考えられます。１１号墳を除く１９基の古墳は出土遺物から５世紀後半から６世紀前半に築かれています。最大の６号墳で直径１７．５ｍという規模は決して大きな古墳とはいえません。最小の１８号墳は一辺２．９ｍと墳丘が実際にあったのか，棺をどのように納めたのか疑問に思うほどちいさな古墳です。

古墳群は調査区の北東，南東，西の３群にまとまります。それぞれ群で最大の古墳はいずれも円墳で，付随するように方墳が築かれています。およそ東側の古墳が古く，西側に向かって順に築かれていったと思われます。中ノ川流域における初期群集墳の代表例です。

各古墳の規模は小さいものの，埴輪が豊富に出土しています。円墳の４・６号墳は周溝全域から円筒埴輪が出土し，墳丘の全周に円筒埴輪列をめぐらしていたことがわかります。また，方墳の３・１７・２０号墳では墳丘の一角に埴輪が並べられていました。円筒埴輪のほかにも人物・馬・鶏・家・甲冑などの形象埴輪が出土し，その一部は現在，常設展示室に展示してあります。埴輪のほかに周溝内からはまとまった状態で完形の須恵器が出土し，葬送に関わる儀式をしていたと考えられます。

古墳時代は，身分の秩序が葬られる墓の形ではっきりと示された時代です。寺谷古墳群でも円墳→方墳，円筒埴輪の列→埴輪部分樹立→埴輪無しという序列ははっきりしています。しかし，立てられた形象埴輪や須恵器には差がないどころかちいさな古墳のほうが優越しているものもあります。３・17 号墳に葬られたのは武人として功績をたてたり，特殊な技能でムラに貢献した人物なのかもしれません。これらとは別に，１１号墳は箱式木棺を墓壙内に納めたもので，周囲に浅い溝をめぐらせます。棺跡から副葬された須恵器が出土していて，７世紀代後半のものです。古墳群の造営が終了して１世紀以上経った後も祖先の墓所として認識されていたことがうかがえます。



古墳	墳形	規模	埴輪	備考	古墳	墳形	規模	埴輪	備考
１号墳	方墳	一辺6．0m			11 号墳	長方形	約５m×約４m		
２号墳	方墳	一辺5．1m	有		12 号墳	方墳	一辺１０．5m		
３号墳	方墳	一辺１２．０			13 号墳	方墳	一辺4．0m		
４号墳	円墳	直径１６．0m	有		14 号墳	方墳	一辺3．4m		
５号墳	方墳？	一辺5．1m			15 号墳	造り出し付方墳	全長１２．５m幅９．０m　造出３．2m		
６号墳	円墳	直径１７．5m	有		16 号墳	円墳	直径１３．2m		
７号墳	方墳	一辺5．3m			17 号墳	方墳	一辺１０．3m	有	
８号墳	方墳	一辺１０．7m			18 号墳	方墳	一辺2．9m		
９号墳	方墳	一辺4．8m	有	埴輪棺	19 号墳	方墳	一辺4．6m		
10 号墳	方墳	一辺9．8m			20 号墳	方墳	一辺7．1m	有	

西高山古墳群

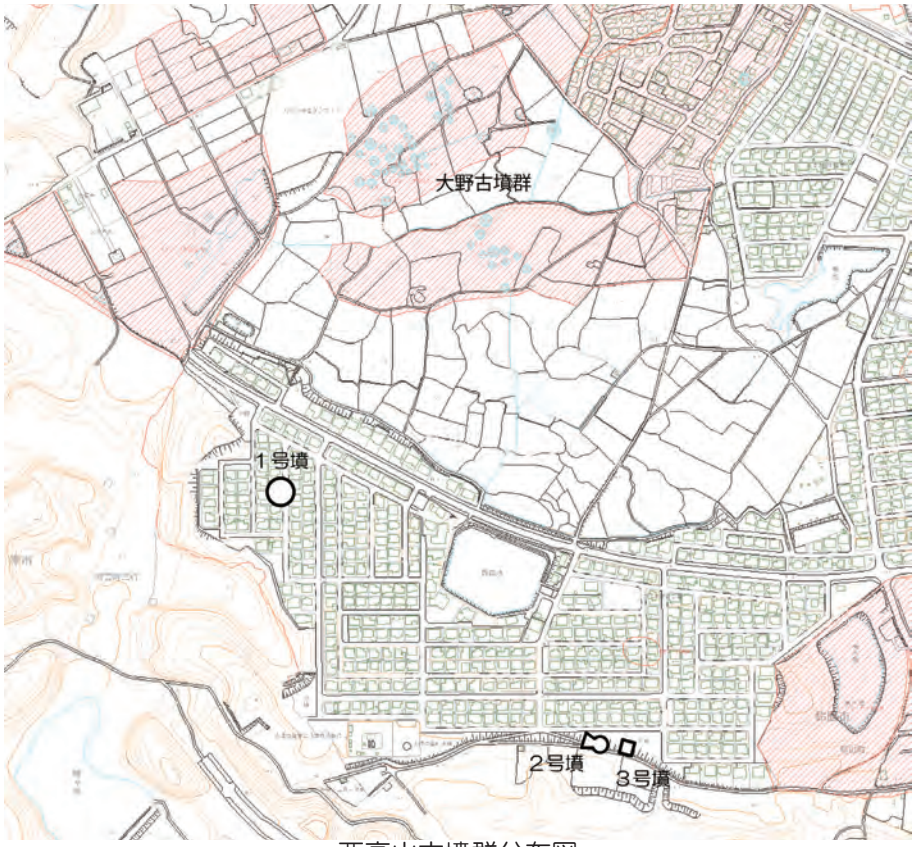
所在地　　郡山町
調査原因　宅地造成工事に伴う緊急発掘調査
調査期間　昭和５６年

郡山町周辺は市内でも遺跡が密に分布する地域で，多数の集落跡・古墳・窯跡などが確認されています。西高山古墳群は４基ほどの古墳から構成されていると考えられ，１号墳は４６基からなる大野古墳群を見下ろすように築かれています。

宅地造成工事に伴い，１～３号墳が調査されました。１号墳は径３０mの円墳で，出土した円筒埴輪などから５世紀前半の築造と考えられています。２号墳は全長 25.5 mの前方後円墳で，周囲に円筒埴輪をめぐらせ，人物・家・楯・動物形埴輪も出土し，周溝から須恵器高坏などが出土しており，５世紀末の築造と考えられています。

３号墳は，２号墳から東へ２０mと離れないところに位置しています。３号墳の墳丘は大半が削りとられており，周溝のみが残っていました。一辺１２mの方墳で，埋葬主体部は不明ですが，表土や周溝内から土師器高坏，須恵器坏蓋・高坏・甕・器台が出土しました。そのほかに埴輪の破片が少量ありますが，２号墳に近い周溝から出土していることから，この埴輪片は２号墳のものと思われます。築造時期は６世紀初頭と考えられています。

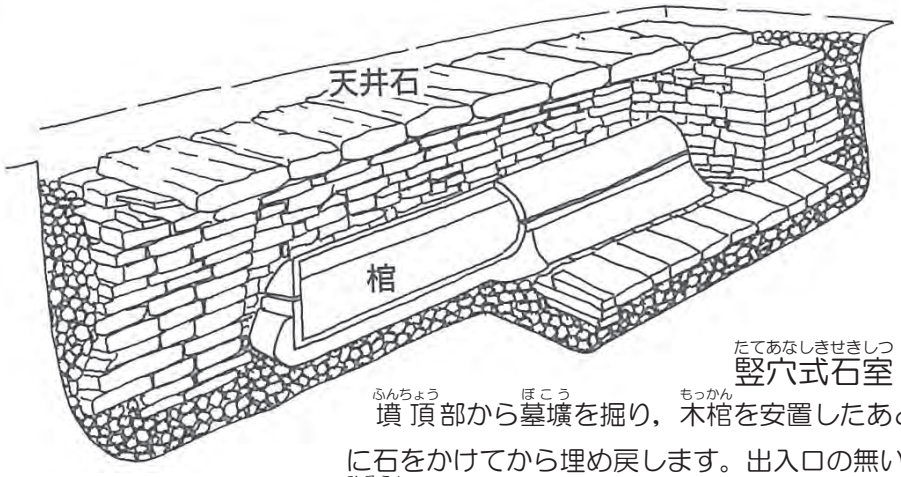
５世紀後半から築かれる初期の群集墳は，円墳や小型の前方後円墳を核とし周囲に小規模な方墳が従属するように形成されていきますが，２・３号墳の関係はそのもっともシンプルな例といえるでしょう。



西高山古墳群分布図

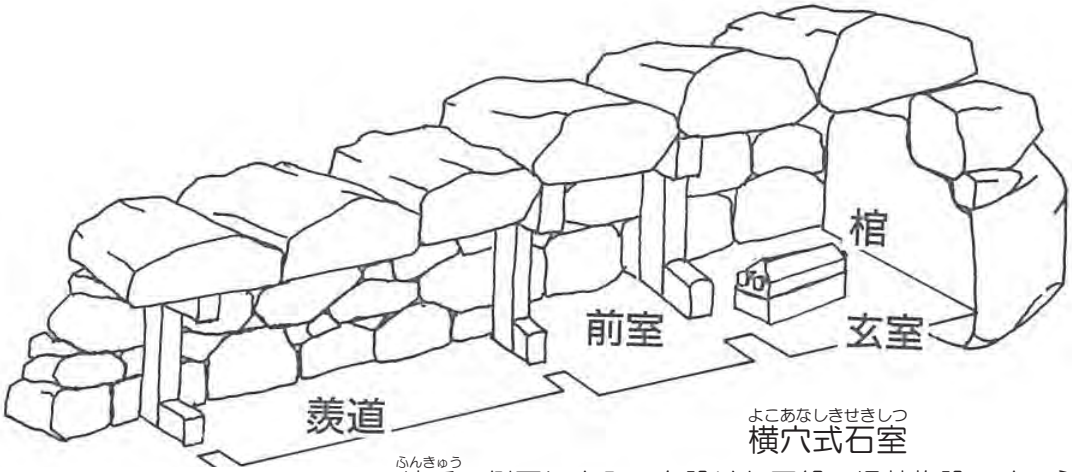
参考文献　『郡山遺跡群発掘調査報告Ⅰ』

埋葬施設のかたち



竪穴式石室

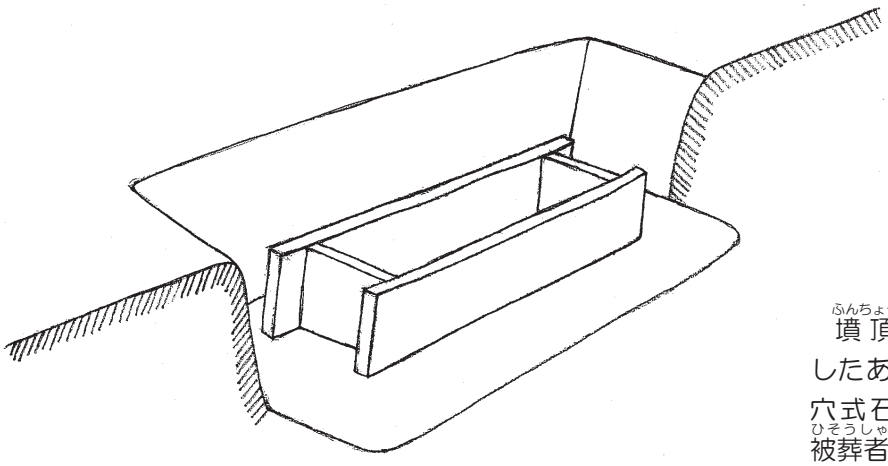
墳頂部から墓壙を掘り，木棺を安置したあと，四方に石を積み上げ，天井に石をかけてから埋め戻します。出入口の無い石組の埋葬施設のため，一人の被葬者のためにつくられたものです。古墳時代前期の大型古墳に用いられています。石室を省略したもので木棺を粘土でおおったものを粘土槨といいます。



横穴式石室

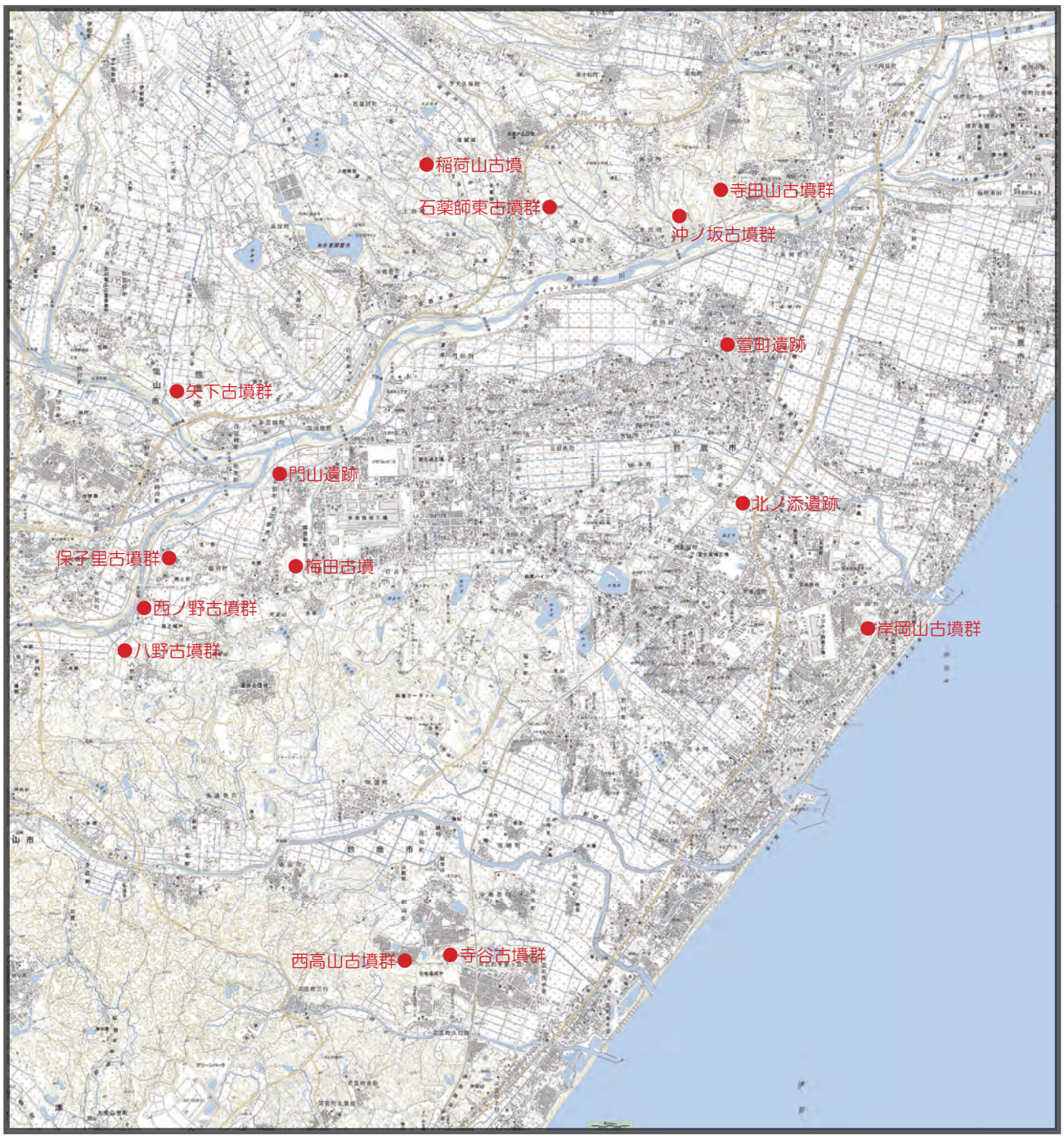
墳丘の側面に出入口を設けた石組の埋葬施設です。主に遺体を納める玄室とそれにいたる羨道からなります。まれに玄室と羨道の中間に前室を設けたものもあります。入口を塞いだ閉塞石をはずすことで墳丘外部から石室内へ入ることができ，何回でも埋葬することができます。古墳時代後期に流行し，大型古墳だけでなく，小型の古墳でも採用されています。

竪穴式石室・横穴式石室『図説　古墳研究最前線』より引用



木棺直葬

墳頂部から墓壙を掘り，木棺を安置したあと，そのまま埋め戻します。竪穴式石室の省略形ともいえ，一人の被葬者のためにつくられたものです。



今回展示した古墳の位置図

関連講演会
平成２８年７月１６日（土）１４：００～
「新沢千塚古墳群－シルクロードの輝き－」
講師　石坂泰士　氏　（歴史に憩う橿原市博物館）

入門講座
平成２８年９月１０日（土）１４：００～
「ちいさなちいさな四角い古墳」
講師　藤原秀樹　（鈴鹿市文化財課）

鈴鹿市考古博物館
Suzuka Municipal Museum of Archaeology
〒５１３-００１３　鈴鹿市国分町２２４
ＴＥＬ０５９－３７４－１９９４　　ＦＡＸ０５９－３７４－０９８６
ＵＲＬ　http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/